

4. 気象モデル

大気拡散を支配すると考えられる気象要素は、地形、海岸距離等の影響に起因する。ここでは、発生源の位置を加味し、これまでの気象調査結果を考慮して気象モデルを作成した。

(1) 気象ブロック

昭和52年度常時監視データに基づく風配図、「環境管理計画に係る気象調査」で設定された気象環境区、地形特性及び行政的見地からの環境区、大規模発生源の所在地に基づき、県内を9ブロックに分割した。ブロック内は同一の気象特性とみなし、大気汚染常時測定局の中から適切な代表気象局を選定した。設定した気象ブロックの地域区分は、表-20、図-3のとおりである。

気象ブロックの地域分割の根拠としては次の事柄が挙げられる。

登米圏は北部と南部で気象環境区特性が異なり、各々類似性のある栗原圏と大崎圏に振り分けた。

気仙沼本吉圏北部と南部では、境界が山で分岐されている地形特性がありかつ南部における気象特性が石巻圏に類似しているため集約した。また、石巻圏東部には、大規模発生源及び測定局がないことより東部を西部と同一視した。

仙台都市圏北部において測定局の風配図より、七ヶ浜-1、多賀城-2、泉と利府、塩釜、多賀城-1、七ヶ浜-2の7区分に分けられるがその他の気象特性を考慮して1つの区分とした。

仙台市内に関して、北部と南部との間に風配等の相違があるため別個に扱うこととした。

広域仙南圏では、海岸部と山沿いへと分割できると思われるが、測定局及び大規模発生源がないことにより1つに集約した。

ブロック名	代表測定局	測
栗原圏	鶯沢	鶯沢
大崎圏 中・西部	古川	古川
大崎圏 東 部	国設笹岳	国設笹
気仙沼・ 本吉圏 北 部	気仙沼	気仙沼
石巻圏	石巻	矢本、 矢本-
仙台都市圏 北 部	多賀城-2	利府、 多賀城、 七ヶ浜- 大和、松
仙台都市圏 中 部	岩切	高砂、岩 衛生試験 中山、中 国設仙台
仙台都市圏 南 部	岩沼	名取、岩
仙南圏	白石	柴田、白